

双塔



新潟教会 2014年5月

No.312

聖週間

主任司祭 ラウール・バラデス

ご復活おめでとうございます。

皆さん、今年の聖週間の典礼はいかがでしたか。

私の場合、例年と少し違ったかたちで過ごすことができました。

メキシコでの聖週間は何年ぶりでしょうか。記憶が薄くなってきました。典礼の違いで戸惑いとともに新鮮さもおぼえました。

先ず、聖木曜日のミサ後、主任司祭はご聖体を荘厳に運びながら先頭になって近所の家を回ります。

七つの仮祭壇はそれぞれの家に準備されます。仮祭壇の家についたら、短い朗読、祈り、聖歌があります。各家にはテーマが若干違うが全部、最後の晩餐から十字架までの出来事を一つ一つ記念します。最後に教会聖堂に戻って、大きな仮祭壇にご聖体を安置してから、祈り、聖歌などがあります。この部分は日本と同じです。

香部屋に戻ったとき「今年は長かったね」と主任司祭は呟きました。確かに、ミサの延長で四十五分ほどかかりました。街中の行列を別にして、各仮祭壇の前の黙想と祈りは素晴らしかった。それはご聖体礼拝にも使ったら良いとさえ感じました。

聖金曜日の典礼は午後三時でした。十字架につけられたイエスの最後の言葉を一つ一つ黙想し、七つのイエスの言葉はイエス様の遺言として受け止め、心に想いめぐらしていくことは感動的な祈り方だと改めて感じました。最後に十字架を運びながら行列を組んで、沈黙のうちに教会を外回りして、金曜日の祈りと典礼が終わります。

聖土曜日の典礼に与るために司教座聖堂に行きました。大司教が司式する典礼に参加することができました。

五十人以上の神学生、三人の助祭、何人かの司祭も一緒でした。復活の典礼は地元のテレビ局で放送されるので典礼係の助祭はとても緊張していました。

とくに、復活賛歌をソロで歌う助祭は始まる前に震えるほど緊張していました。しかし、始まる前に大司教様はこの助祭を呼んで「大事なのは祈りの心だよ、歌うときに間違っても構わない、心から主の復活を感謝すればいい」と励ましてあげました。

その助言のおかげなのかもしれないが素晴らしい、祈りにこもった歌声で歌ってくれました。

復活賛歌の後に電気がつけられるはずが中々つけてくれない。

「何かの問題があるのか」とそばにいた若い司祭に聞いてみました。「いいえ、栄光の賛歌まで電気を消したままで進みます」と教えてくれました。朗読台と聖歌隊のところにだけ小さなLEDのランプがあって、他のところ、司教様のところも暗いでした。

「聖書と典礼」のようなしおりは使えないので本当に朗読と祈願を聞くだけでした。歌もとてもシンプルで会衆は聖歌隊の後に繰り返すというかたちでした。栄光の賛歌が始まると明かりがつけました。長い暗闇のあとに光のありがたさを感じました。典礼のかたちが少し違っても、みな同じように主イエスが見せてくださった神の愛を再確認して、それを具体的に他の人と分かち合うことができたいと今年改めて感じました。



そよかぜ便り

■ 四旬節の黙想会

町田神父様、半世紀振りに新潟教会で司式 —— 3月29日(土) 15:00、30日(日) 9:00 ——

—「新潟教会で叙階のとき、レースのモチーフのスルプリを作って頂いたお礼を言わなかったので、50年振りに『ありがとう』、そして異動の時は、挨拶をしなかったので、50年振りに『お世話になりました』と、寺尾教会の主任司祭 町田正神父様はお話を始められ、会場は和やかな雰囲気。私たちは、本質に戻って出発しなくてはならない。それは、“祈り”と“みことば”と“黙想”であり、それによって、私たちの生き方がイエスようになっていくのである。神が私たち一人一人を愛して下さることに気づき、私たちが変わることだ、と話された。

2日間に渡る黙想会を指導後、新潟教会で50年ぶりにミサをたてられた。

■ 受難の主日(枝の主日) 枝の行列 —— 4月13日(日) 9:30 ——

桜が満開の四旬節最後の日曜日。センター1階で、主の「エルサレム入城」を記念し、菊地司教様から祝福を受けた枝を持つ全員が、行列して聖堂に入った。(「枝の主日」と呼ばれる所以) 祭壇に献香し、司教様の司式でミサが行われた。司教様は、私たちの「信じる心」は善悪の判断を鈍らせることもある。エルサレム入城の記念の朗読(マタ 21:1~11)と受難の朗読(マタ 27:11~54)を比較し、イエスを、“身勝手な期待”で喜んで迎えた同じ民衆が、期待を満たされないと憎悪に変わり「殺してしまえ」と簡単に心変わりをする、と話し始められた。そして



教皇フランシスコのメッセージを紹介。イエスが幸いであると告げた人は、世間一般では“敗者”や“弱者”である。欲望から発生する価値観と対立する神の価値観を取り戻すようにと、教皇様

は呼び掛け、私たちに『新しく生まれ変わる』ことを求めておられる、と話された。

「私たちが新しく生まれ変わるよう、祈りの一週間にしたいと思います」と静かに結ばれた。



■ 聖香油のミサ —— 4月16日(水) 10:00 ——

新潟教区で一年間、秘跡の執行に使われる油が祝福され、同時に司教と司祭が共同司式を行うことで一致を表し、司祭は司祭職の約束の更新をする「聖香油のミサ」が行われた。教区内で

働く司祭約 20 名と、信徒 50 名ほどが参加。菊地司教様は説教の中で、東日本大震災から 3 年が経過した被災地の現状を話され、「復活したイエスがエマオへ下っていく弟子に同伴して歩まれた姿を模範とし、これからも被災地の方々に寄り添い、歩みをとともにすることで信仰を表していきたい」と話された。また、秘跡の執行は司祭の役務の中で大きな部分である。司祭が叙階でした約束に忠実に、牧者としての使命を果たすよう話された。

■ 聖木曜日 主の晩餐の夕べのミサ——— 4 月 17 日（木） 19 : 00 ———

聖なる過越の三日間が始まった一日目。イエス様が弟子たちの足を洗われたように、菊地司教様が代表 5 人の男性の前に跪いて、洗足式を行った。聖体拝領後、残ったご聖体を全員が行列して小聖堂に運び、仮祭壇に安置する「聖体安置式」を行った。その後、神父様方や侍者の手で、聖堂の祭壇の布や一切の飾りが取り除かれ、主の受難が始まったことを表現した。ミサ後、白い花々で飾られた小聖堂の祭壇に安置されたご聖体の前で、各自が聖体礼拝を行った。



今年、淋しいほどに参加者が少なかったのは、教会内の高齢化だけでは済まされないものがあるように感じた。

■ 聖金曜日 主の受難の祭儀——— 4 月 18 日（金） 19 : 00 ———

主の受難の祭儀は沈黙のうちに始まる。なぜならそれは、前日の典礼に続くものだから。司式のナジ神父様は祭壇の前にひれ伏し、やがて立ち上がり、祈願を唱えられた。イザヤの書から苦しむ主のしもべの箇所（52-53 章）が読まれ、受難の朗読に至る。さらに盛式共同祈願をもって全世界のためにとりなしの祈りが荘厳にささげられた。それから、十字架賛歌が歌われる中、全員が十字架の前進み出て崇敬を表した。仮祭壇から運ばれた聖体を拝領したのち、ナジ神父様は会衆のうえに両手を伸ばして祝福の祈りを唱えられた。一同は、沈黙のうちに散会した。

■ 復活徹夜祭——— 4 月 19 日（土） 19 : 00 ———

暗い聖堂に、「キリストの光」とナジ神父様の声が響くと会衆が応えた「神に感謝」。祝福された火は復活の大きなロウソクに灯され、それぞれが持つロウソクに次々と光りが灯され、光の祭儀が始まった。今年は主任司祭が留守のため、復活賛歌を歌うことになったナジ神父様は緊張した表情。司教様はお説教で、「信仰生活は、洗礼で完結するわけではない。地上を去るまで常に深められなくてはならない」と話された。祝福の水を受けた会衆が歌う「アレルヤ すべての国よ 神をたたえ」が聖堂内に響いた♪

■ 復活の主日 ——— 4 月 20 日（日） 9 : 30 ———

「ご復活、おめでとうございます」と交わす声も晴れやかな朝。

復活の主日のミサは、満員で立つ人の姿も。カトリックの慣例にならい、卵の祝福が行われた。

信徒会館前では、ピンクと黄色の卵が可愛くラッピングされて籠に盛られ、求める人たちで小さな人だかり。人の波は祝賀会が開かれるカトリックセンター2階ホールに向かった。

主のご復活おめでとうございます！

<材料> 卵 300 個、紅花、クチナシ 6 個、卵の穴あけ器、タイマー、
温度計、大鍋 2 つ、ボウル 2 つ、卵取り網



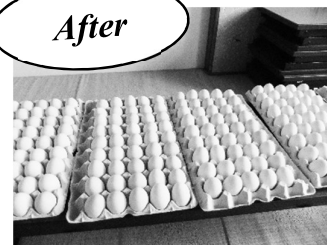
Before

<染め方>

- ① 卵に、穴あけ器で穴をあける（茹でる途中でパンクしないため）。
- ② 大鍋に卵を分けて入れ、茹でる。タイマーは 45 分にセット。
20 分くらいで温度は 80℃ になるので、蓋をして 85℃ をキープのこと。
- ③ 茹でている合間に、ボウルに紅花を少量の水で溶き、
クチナシを細かく輪切りに。
- ④ 茹であがった卵を、熱いうちに紅花の液の中できれいに染め、
頃合いを見て、タオルで余分な水気を拭き取るだけ。
クチナシも同様ネ。
- ⑤ 後は、卵の入っていたケースに並べて、冷ますだけ。



After



《2014年 5月の聖書クラス・信仰講座のご案内》

曜日	時間	内容	担当司祭
月曜日(不定期)	午前10:00～	キリスト教のQ&A	三崎神父
水曜日(毎週)	午前10:00～	聖書クラス	ラウール神父
第三土曜日(毎月)	午前10:00～	キリスト教の教え	ラウール神父

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。